

# 1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2470301090		
法人名	医療法人ほうしょう会		
事業所名	グループホームうの花		
所在地	三重県鈴鹿市石薬師町1096		
自己評価作成日	令和6年2月29日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2470301090-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;jiyosyoCd=2470301090-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和6年3月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

石薬師は歌人佐々木信綱生誕の地です。唱歌「夏は来ぬ」に歌われている「うの花」の垣根に囲まれた庭には実のなる木が植えてあり、緑が溢れ、四季の移り変わりを感じる事が出来ます。当施設の運営母体は医療法人の為、常に入居者の健康管理を行っています。理事長である主治医には24時間相談できる体制を取っており、緊急対応にも万全です。ご縁を頂いた入居者は、希望により終末まで対応させていただいています。法人理念である「人生の先輩としての尊敬の念を持ち、安堵安心を捧げ、真心をもって接する」を職員は日々実践し支援させていただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

敷地西側に「うの花」の垣根があり（5月には華やかな花と匂いが漂う）庭には実のなる木々が植樹され、四季の移り変わりを目で見え楽しめる環境の中、開所して20年目。共用空間や居室の窓からは、四季の草花が見られ季節の移り変わりを目と肌で感じる事が出来る。新型コロナウイルス感染症も5類に移行したが、まだまだ感染症対策を徹底して、利用者、家族が、地域から孤立しない様に気を配っている。また職員は、法人理念を心に念じて、3つの約束を作り、いつも笑顔を絶やさず、利用者の日々の支援に取り組んでいる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に職員全員で考えたグループホームの理念を毎日朝礼で唱和し、意識づけ、日々実践している。	法人理念を基にグループホーム独自の理念「笑顔で作る優しさの輪」で、いつも笑顔を絶やさず、家庭的で楽しい生活をしている事は、利用者の笑顔から感じ取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、運営推進会議でも地域の情報をいただいている。地域のイベントなどに参加したり、以前まで毎年恒例だった神輿も来訪していただいた。	新型コロナウイルス感染症も5類に移行した昨今であるが、感染症対策を徹底して秋祭りの子供振興の訪問で地域交流が出来た。11月には、「ふれあいフェスティバル」に日頃作成した作品を展示して好評を得た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に、運営推進会議で認知症の方の対応や日々実践しているケアについて情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者家族、自治会長、グラウンドゴルフクラブ代表、主治医、地域包括支援センター長が出席し、日々の取り組みやサービスの内容を説明し、意見交換を行っている。	令和5年8月から対面で開催でき、事業所でのヒヤリハットの事例や研修の報告を行い、参加者から新しい情報や貴重な意見を頂き有意義な会議となった。出た意見は、サービスの向上に繋げる事が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	令和5年10月から介護相談員の来訪が再開となり、来所時には様々な取り組みを伝達している。	管理者は、各種手続きや相談に市の窓口に出かけて助言を受け、良好な関係を築いている。介護相談員の来訪を令和5年10月から再開し、サービスの取り組み等を伝えて、アドバイスを受けた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針やマニュアルに添って「身体拘束をしないケア」を実践している。新任・現任研修を行い、スピーチロックにも気をくばっている。玄関は夜間以外は自動ドアにしています。	3月に1回「身体拘束等適正化委員会」を開催し、スピーチロック等いろいろな課題（気付き報告書より）に対して、全職員で意識の共有をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に取り入れて全職員が学習し、日々のケアで注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在1名の方が成年後見人制度を利用している。今後も利用者の状態悪化により成年後見制度が必要になった場合は適切に対処できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分に取り、書類(契約書、重要事項説明書など)を確認しながら質問をうかがい、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月のお手紙や電話、LINEでのやり取りでお気持ち等を聞かせて頂いている。	毎月「うの花便り」と共に事業所内近況を手紙や、ライン等で知らせ「安心できる」との言葉を頂いた。家族からの要望は「申し送りノート」に記載して全職員で共有している。「アニマルセラピー」の問いに実現し利用者に喜ばれた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務の中で発した職員の意見等を管理者がくみ取り、毎週行っている運営会議で報告し善処している。「リクエストシート」を活用し対処している。	管理者は現場に入り職員とコミュニケーションを取り、リクエストシートによる提案や要望を出しやすい環境を築いている。毎週1回「運営会議」を開催し運営に関する話し合いをしている。介護用品の要望には即対応され安全介護に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課を年2回実施し、職員個々の努力や実績を反映させている。各職員の「やる気」に繋げ、向上心を持って働けるよう職員環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は現任研修計画に沿って実施し、研修レポートを提出してもらっている。外部研修はほとんどがリモートで行われており、内容によって職員の希望を聞いて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス事業所連絡会の会員になっている。外部の研修会(リモート)での交流を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の準備として関係機関から様々な情報をいただいて本人と面談している。その際に困り事や意向などの聞き取りを行うと同時に、言葉では表現できないようなことは表情などから推測できることもあり、しっかり受け止めて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が抱えている不安や要望を把握できるように努めている。気軽に話していただけるような環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に関しては本人と家族との意向が合致していないケースがほとんどであるため、在宅生活が継続できる様々なサービスの活用等の提案もおこなった上で入居の判断をしていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の嗜好や得意としていること、残存能力等を見極め、人生の先輩である入居者の皆さまから教わる姿勢での関係づくりを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後、家族の意向もあり面会されていなかったケースがあり、電話やお手紙、LINEで当所での暮らしの様子をお伝えしながら、本人と家族の絆を大切に、家族と一緒に関係づくりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、通っていたデイサービスから年賀状が届き、本人手作りのプレゼントと手紙を送っている。昔の写真を持参して頂いたり、遠くに住む子どもからも楽しい動画が届いている。	2ユニットの合同イベント時等では、ユニットに関係なく馴染の関係が事業所内で育まれている。個人で携帯を持参している利用者は、LINEで家族との関係を継続している。家族にイベントの動画を送信して喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し必要に応じて職員が間をとりもったり、席替えを行うことで利用者同士が良好な関係を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて相談等に応じている。状況を伝えてくださる家族もいらっしゃる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向を伝えられる入居者は少なく、日頃の行動や表情、何気ない会話も大切にしている。各職員が得た情報は共有し、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に支援している。	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し本人の思いに添えるように努めている。職員が確認した内容は、ユニット別に担当で討議し、申し送りノートに記載して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に過去の生活歴や暮らし方等記入していただくシートを家族に渡し、記入していただき参考にしている。入居後は本人からの何気ない会話等から把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの心身の変化に気を付けて支援している。心身の状況はその時により変化するので毎日の記録や申し送り等で共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために職員の気づきを大切にしている。毎日の個別記録によりモニタリングチェックを行い、関係者同席で適時カンファレンスを実施し、見直しを行っている。	個別介護記録に生活の様子、心身の状態等が丁寧に記載されている。業務日誌から主治医、看護師の意見や家族の意見を参考にし、計画作成担当が介護計画を作成して、利用者主体の介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は計画を記載してある介護記録用紙に毎日の支援を記入して。計画担当は毎月支援計画を記載すると同時に訪問診療時の医師のコメントや服薬状況も記載し共有できるように個別記録と一緒に綴じており、職員は適時確認し実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊や外食、買い物等を要望により実施してきたが、現在は感染症問題があり、実施が難しい状況にある。代わりに施設内での楽しみ作りに力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪やイベントに参加等地域の方々の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長である医師が主治医として月2回訪問診療を行っている。又、治療が必要な時には運営母体のクリニックへ支援を行う。専門外への受診は家族とともに職員が同行し適切な治療を受けられるように支援している。	利用者全員が、母体法人の医師を主治医とし、月2回の訪問診療を受けている。訪問看護が週1回健康管理、健康相談をしている。24時間対応往診も可能で家族の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は職員としては不在だが、毎週1回クリニックの看護師が入居者全員の健康チェックに来訪している。状態が悪い時など主治医とのパイプ役として支援している。医療と24時間連絡が取れる体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要な場合は、主治医より入院先の紹介と詳しい情報の提供があり、安心して治療が受けられる体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応や終末期の支援等を説明している。そのような時が来た場合は主治医と家族、職員が十分に話し合い、看取りの支援を行っている。	契約時に「終末期の医療ケアについての事前調査書」の説明と共に、事業所で出来る事と出来ない事を詳しく説明している。重度化した時には再度書面で再確認し医師を中心に家族はじめ関係者で話し合い、看取り支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時事故対応マニュアルに基づき勉強会を行っている。新任の職員には毎年消防学校で行われている救急法の研修や実技講習に参加させている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の内容として地震、火災等色々なケースを想定し年2回実施している。運営推進会議の方々にお伝えし、いざという時に支援していただける体制を取っている。	水害の心配は無い地域で、年2回地震、火災を想定して避難訓練を実施し、同時に業者による機器の点検も実施した。職員は同地区の消防学校の訓練に参加し、消防関係者と親睦を深めている。水や食事の備蓄、ヘルメットの備えもあり防災意識は高い。	避難訓練は年2回実施されているが、防災訓練記録として実践取り組みの現場写真を添付されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応にも尊厳の気持ちを持って接している。入居者一人ひとりの生活歴や特性等を把握したうえで人格を尊重し丁寧な言葉で対応している。トイレ誘導時もプライバシーを損ねないように配慮している。	日頃から利用者には、敬意を持って接しプライバシーを損なわないよう配慮した支援を心がけている。利用者の状況に合わせた言葉使いや声の大きさに心がけて個々の生活のリズムを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から本人の本心を探ったり、思いや希望が話しやすいような会話を心がけ、又、表情等で思いをくみとれるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の心身の状態に合わせた時間の過ごし方をしてもらっている。起床時間や就寝時間も本人のペースに合わせ、心地よく生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常は季節に合った衣服の着用を支援し、お誕生日や行事の時はおしゃれ感を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に「北原白秋の五十音」や季節の歌、「バタカラ体操」で声をだし、食事中は穏やかな音楽を流し、ゆったりとした雰囲気での支援をしている。食事作りには参加はしていないが、おやつレクにてモンブラン風ケーキや大根餅など利用者と一緒に作り楽しんで頂いている。	委託業者の管理栄養士が立てたメニューで栄養のバランスもよく、対面キッチンから漂う料理を作る匂いも家庭的な雰囲気を醸し出している。お祝い会（誕生日食）には好みの食べ物を用意し楽しみ作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後のコーヒーを毎日楽しみにしている方や飲み物は好みにより用意し、水分量は十分確保できている。界入り栄養士が立てた献立で栄養バランスは非常に良い。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	残渣物が口腔内に残らないように毎食後の口腔ケアを行っている。義歯は每晚洗浄剤を使用し清潔を保っている。自己管理の出来ない方は、その都度職員がブラッシングで支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録により一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行っている。自らトイレを使用される方には、その方の習慣を活かしてさりげない支援を行っている。	個々の排泄チェック表を基に排泄パターンや習慣を職員間で把握し、心身状態に配慮した声掛け誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行等運動を勧め身体を動かす支援を行い、野菜が十分な食事内容で配慮し、好みの飲み物をお出しするなど、十分な水分を摂って頂いている。食事や水分は摂取量を記入し不足の方には工夫して提供し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の好みと心身の状況に合わせた支援を行っている。お湯は一人ひとり入れ替え、入浴剤を使用してリラックスして入って頂いている。	基本週2回の入浴で一人ずつ湯を入れ替え、一人ひとりの体調や希望に合わせて職員と1対1になる時間を「楽しめる」ように支援している。入浴剤や、ゆず湯等で季節を感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や心身の状況により支援している。部屋の温度や照明に配慮し安眠できる環境を作っている。好みのラジオを聴きながらリラックスして休息出来るように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬がなされるよう服薬管理を行っている。個人別の棚に薬とともに処方箋や薬手帳を閲覧できるよう設置し、薬の副作用、用法用量が確認できるようにしている。新しく処方された薬は内容や副作用などを回覧して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や日課を継続できるような環境づくりを行っている。新聞や雑誌はテーブルに置き自由に読むことができ、居室への持ち込みも可能としている。懐かしい映画、紙芝居など実施し、気分転換を図っている。他季節のイベントも時期に応じて開催している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は感染対策に十分注意をはらっている。季節感を味わっていただけるように少人数ずつで初詣、花見、紅葉などドライブに連れていっている。気候の良い時期は施設周辺の散策に出掛けている。	事業所周辺の散歩や、ベランダでの外気浴等立地環境から日常的に外気に触れる機会はある気分転換は出来ている。職員と一緒にベランダで洗濯物干しが出来る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金制度をとっており、個人的にはお金を所持することはない。施設内で使える通貨を作り、イベントでマーケットやバナナのたたき売りなど買い物できる環境を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい方には施設の電話を使っただけではない。手紙の要望があれば支援している。個人で携帯を持っている方も要望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くて陽当たりの良い空間での生活は、とても居心地が良い。季節感のある壁面に加え、皆さんの笑顔の写真も飾っている。天窓からの採光を浴びながら毎日リハビリも行っている。	リビング兼食堂は窓からの陽光を遮光カーテンで調節。オゾン空気清浄機や24時間換気システムが設備され、換気も行き届き明るく落ち着いた共用空間である。アップライトピアノが置かれて安らぎの空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は相性の良い方同士でとの配慮より時々見直しつつ指定席を設けている。長椅子やソファなどの備えで思い思いに過ごしていただける工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電動ベッド、クローゼットは備え付けで用意しているが、後は自宅で使っていた馴染みのある物を持ってきていただいている。家族はアルバムを用意したり居室内をきれいに飾り付けたりと、本人が心地よく過ごせるように工夫している。	可能な限り使い慣れた調度品を持ち込み本人が落ち着いて居心地よく過ごせる工夫がされている。掃き出し窓で日当たりもよく明るい。衣類等は、クローゼット内に整理整頓され清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に生活できるようにと、動線を確認している。ベッドからの立ち上がり困難な入居者にはL字の手すりを設けている。トイレや居室の場所などはよくわかるように掲示を工夫している。		